

2005年新年例会 開催

しっかりした人生観としっかりした経営理念を 持って企業の社会的責任を果たそう



郷司会長新年あいさつ

大分県情報サービス産業協会平成17年新年例会が、1月26日15時30分から、トキハ会館で会員約60名が出席して、盛大に開催されました。はじめに郷司潔会長から新年にあたってのごあいさつがありました。

「鶏口となれ」

みなさん明けましておめでとうございます。お元気で新年をお迎えのことと思います。

今年はいよいよ「世界最高水準に行くIT国家を目指す」という政府の目標の最終年度を迎えました。全国的には、昨年情報化が着実に進んだ一年であったと思います。それは数字の上でもはっきりと表れております。一方、県内の情報化につきましては、行政、民間の両面におきまして、みなさんの努力によって着実に進捗していると言ってよいと思います。業界のDI値をみましても、将来の売り上げ見通しは拡大基調にあります。また、今年からいよいよ市町村合併がスタートしました。ご存じのとおり、新年早々に、新大分市と新臼杵市が誕生し、既に新しいコンピュータシステムが稼働を始めております。今年、県内の多くの市町村が合併する見通しでありますので、この合併を機に新しい電子自治体に生まれ変わることに思われます。したがって、今年これら行政の情報化を中心にして、一般民間の情報化がまた一段と進むものと考えられます。我々は、それぞれの分野において積極的に仕事を確保し、ユーザーの要望に応えていく必要があると考えております。

さて、今年のエトは酉であります。トリに因んだ古い諺に「鶏口となるも牛後となることなかれ」という言葉があります。この言葉は我々の業界にとって大変意味のある言葉であると思います。我々は小さくてもキラリと光る技術と他に真似のできないソリューションさえ持つておれば、必ず生き残れます。逆に、いくら大きくても、牛後となっていたのでは、やがて消えゆく運命をたどるのではないでしょう

か。

最近、三次元の変化の時代という言葉がよく使われます。変化の幅、変化の奥行きそして変化のスピードという三つの次元から変化を捉える言葉であります。我々は今、情報革命といわれるような大変な変化の時代に遭遇しています。そして、この変化の中で我々の価値判断の尺度が大きく揺らいできています。最近では、今までの常識という尺度が非常識になったり、社内の常識が社外の非常識になったり、日本の常識が世界の非常識になったりしています。したがって、私達は自分達の常識が果たして本当に常識なのかを今一度考え直してみる必要があるのではないのでしょうか。

また最近では、二極分化という言葉をよく聞きます。この概念は単に企業間の競争構造だけを行っているのではなく、今や都市と都市、大学と大学の間など、あらゆる分野に二極分化がひろがりつつあります。つまり、平均という言葉があまり意味を持たなくなってきたということです。業界平均とか世間並みというのは負け組に入る可能性が出てきたということだと思えます。勝ち組に入らなければ負け組となり、即市場から退場を命じられるという大変厳しい時代を迎えています。また、スピードという言葉の意味も随分変わってきました。従来はある静止したものを基準としてスピードが計算されておりました。例えば、列車のスピードは止まっている地面を基準に時速何キロで走っているか示しています。しかし、最近のように経営環境の変化が速いときには、止まっている地面ではなく、変化している環境速度と比較しながら、どうするかということを考えないと対応ができなくなってきました。したがって、前年対比という言葉がだんだん通用しなくなってきました。前年には特殊な事情があつて比較にはならない。しかも、変化の時代には特殊事情のない年などは到底考えられない。そうしますと、我々は一体何を基準にものと考えたら良いのか分からなくなってしまう。本当に役立つ物差しとは一体何だろうかということをよく考えます。前年対比という物差しが意味をなくしたのであれば、残るは目標対比という物差ししかないように思います。各企業がそれぞれしっかりした自分の経営目標を立てて、その目標に向かって、環境速度を考えながら行動を起こしていく。これしかないのではないのでしょうか。私はいつもそう思っています。そして、これができる企業だけが二極分化の中で勝ち組に入ることができて、上昇スパイラルに乗ることができる。今はそんな時代だと思います。現代のように価値尺度が大きく揺らぐ時代には、どうしても、自分なりのしっ



首藤文明大分県商工労働部審議監あいさつ

りした目標を持って、それを物差しにしなければ生きていけません。その価値尺度とは一体何なのかといいますと、それは個人においてはその人の人生観であり、社会においてはその会社の経営理念だと思えます。もうみなさんも既にご存じだと思いますが、昨年の暮れに当協会の会員会社の中から不祥事が起こりました。我々としても大変残念であります。しっかりした時代だからこそ、自分なりにしっかりした人生観としっかりした経営理念を持って、企業の社会的責任を果たさなければならぬのではないのでしょうか。

今年もまた、お互いに鶏口になることを目標に、スクラムを組んで、大分県の情報化に向けて懸命に取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

新しい年、2005年が私どもの協会にとりまして輝かしい年でありますことを祈念して、簡単ですが年頭のあいさつとします。

ついで、大分県商工労働部審議監首藤文明様よりごあいさつをいただきました。

引き続き、16時より記念講演として日本放送協会工藤三郎氏に講演いただきました。(講演内容は2面に掲載しています。)

その後別会場に移り、協会の清水正俊副会長のあいさつ、乾杯の音頭で祝賀パーティに入りました。



新年祝賀会風景

2005年新年特別講演会

日時：平成17年1月26日16時～17時30分

場所：トキハ会館

講師：日本放送協会エグゼクティブディレクター
工藤三郎氏

演題：「デジタル時代とスポーツ放送」

88年から9回のオリンピック放送を経験。「仕事もしゃべりも感性で。論理的とか技術的ではなく、アテネで放送ではお伝えしきれなかった部分、面白い話を」と、DVD映像や裏話も織り込んで聴かせていただきました。



アテネオリンピックで、日本はなんと37個のメダルをとりました。実況放送のアナウンサーは全部で18人。37個のメダルですから、大体みんな「日本銅メダル〜！」とか実況しているわけです。柔道なんかの場面の人は連日のように「日本金メダル〜！」って。これ言いたいんですね、アナウンサーは。気持ちがいいもんですから。残念ながら私はそれにひとつもあたらなかった。担当は多かったのですが、日本のみなさんが「やった」という瞬間をほとんど放送することができませんでした。

そこで存在の証明というか、日本のみなさんはNHKの工藤と知らずとも多分聞いたので

はなかるうかという放送がございます。

「28競技、その301種目最後のメダルをかけてのレースが今から始まります」男子マラソンです。この放送は多くの方がお聞きになったと思うのです。そこで、変なスカートをはいたおじさんが出て来て、選手を押し出してしまいました。これもハプニングの歴史としては残るのかもしれませんが。アナウンサーの本懐ですね。実は押し出される瞬間は画面に映ってないんです。マラソン放送は多くのカメラ映像が全部1ヵ所に集められ、私たちは実際に現場を見ずに画面を見ながら生で放送します。ですから本線はその瞬間に何を撮ったのですが、撮られていない映像も来ています。その時、その画面に変なスカートをはいたおじさんが出て来て、横に行ってしまったのです。それで話しをしてしまった、「出てきた、出てきた」という何が出てきたのか良く分からないのですが、とにかく叫んでしまったという放送になりました。これをご覧になった方は、ずっとその時にあの選手がどうなるかがとても気がかりだっただろうと思うのです。私の思いとしては、その後私たちの放送が終わった後にこの選手の記者会見の談話が入ってきて、「とにかく僕はメダルをとれて満足している。目標は達成したんだ」という言葉を聞いて、日本中のみなさんもかなりほっとした方が多かったのかなという感じがするのです。オリンピックの放送をやって良かったと思うのは実はそういう瞬間であり、そういう瞬間のあのコメントを聞いて「あ、オリンピックの放送というのは、だからうけるんだな」と思いました。そういう仕事をできてその瞬間を「日本、金メダル」という形では言えませんが、話せて良かったのかなと実感しております。私が放送した中で非常に印象に残っている競技は女子の棒高跳びで、これは個人的には今回のオリンピックの中では名勝負の5本の指に

入りそうな、いい勝負だったと思っています。

最初にオリンピックに行った1988年冬に資料を作るために持っていったのは、ボールペンとシャープペンシル。そういうもので大体の仕事は済ませました。92年のバルセロナではワープロ専用機で自分の資料を全部作りました。96年のアトランタの時からようやくインターネットで情報が入るようになりました。それから比べると、今や非常に便利になってきました。世界の情報が集まることで、我々にとっては非常に放送しやすいオリンピックになってきたという印象があります。

今では知らない選手が出てくることはあまりなくなりました。96年アトランタのマラソンでエチオピアのロバという選手は、出てきた途端に誰も分からずに年齢が最初31歳から始まって、2時間後には16歳でゴールするというそんな時代から、今や瞬く間に資料が集まりイメージも作りやすくなってきました。

これからのデジタル放送の時代で一番最後に残っているのは、我々アナウンサーの感情移入ではないでしょうか。今のオリンピックはその他は完全にデジタル化されています。その場の状況を同時進行で視聴者のみなさんが見ることができます。スポーツ中継の最後の面白みは、予測できない状況をいかにみなさんに的確に伝えることができるかということではないでしょうか。

次の2008年の北京のオリンピックは完全ハイビジョンで映像を作ります。デジタルの場合は間違いが極めて少なく、正確に情報が伝達できるのですけれども、スポーツの一番興奮できる部分を伝えるにはアナログのアナウンサーの肉声に勝るものはないだろうと、こんな思いでやっているのだなということをお分かりいただければと思います。

(総務委員会)

平成16年度 第2回 視察研修旅行報告 ブリヂストン甘木工場、サッポロビール新九州工場を訪ねて

平成16年度第2回視察研修旅行を無事に終了することができましたので、OISA会員のみな様に報告したいと思います。旅行日と視察先は下記のとおりです。

日時：2005年2月17日（木）7時40分～

視察先：ブリヂストン甘木工場（福岡）、
サッポロビール新九州工場（日田）

参加：14社21名

【出発】 当日はあいにくの雨模様かと思われましたが、なんとか天候も回復に向かい、予定どおり出発することができました。途中、高速道路から眺める別府湾の光景は、雨上がりに木漏れ日が射し込むような姿を見せ、四国の佐多岬までをくっきりとみることができました。

【ブリヂストン甘木工場】

QUALITY IS OUR PASSPORT（世界市場でNo.1の品質を！）これがブリヂストン甘木工場の品質スローガンとなっています。

全社的には、「信頼と誇り」を精神的な支柱とし、従来からの社是「最高の品質で社会に貢献」の具現化を使命とする企業理念「ブリヂストン信条」をもって連携しているようです。甘木工場は、1973年に大型車両（バス・トラック用タイヤ）向けに国内で8番目に創業した工場です。当時、緑と環境には最大限の注力をされたようで、並木道は非常に美しいものでした。また、ブリヂストンの中で最大の生産量を誇る工場となっておりますので、実質、日本一のタイヤ工場の視察を経験することができました。タイヤができるまでの工程など、考えたこともありませんでしたので、興味深く拝聴することができました。

【サッポロビール新九州工場】

ビヤフォレストサッポロ（愛称）

「環境との共生（自然との調和）」「地元との共生」をコンセプトに、2000年に創業した新九州工場を視察しました。九州全域、中国地方の一部、海外（韓国・オセアニア向け）をカバーしている工場です。試飲、ビール園等で馴染みのある施設ではありましたが、改めて説明を受けると、新たな発見があ

りました。みなさん！こんなこと知ってましたか？

- ・今、一番売れているビール「ドラフトワン」は、九州北部4県での先行販売だった。
- ・工場周辺には、雷が落ちないらしい。

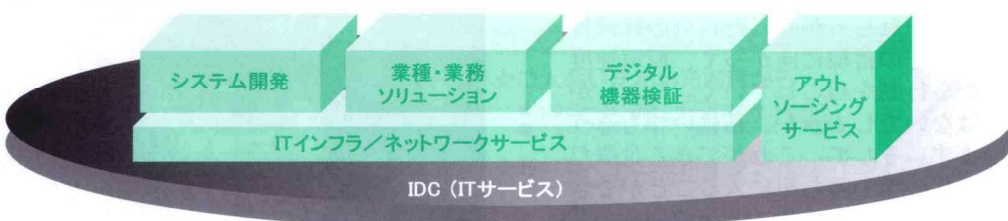
【おわりに】 今回ご参加いただいた会員様には感謝しております。この場を借りてお礼申しあげます。また、企画委員会では、より多くの会員様にご参加いただける視察研修にしていきたいと考えております。希望の視察先等ございましたら、是非ともご一報願います。

(企画委員会)



ブリヂストン甘木工場にて

個性あるサービスを的確・確実に提供



Total Solution Provider

CEC 大分シーイーシー株式会社
Computer Engineering & Consulting

● 本社

〒873-0008 大分県杵築市熊野大平21-1
TEL:0978-64-1111 FAX:0978-62-1441

● 大分分室

〒870-0026 大分県大分市金池町2-1-3-5F
TEL&FAX:097-537-3757

www.oita-cec.co.jp

平成16年度「技術研究会」発表会開催

日時:平成17年2月18日(金)15:00~17:10 場所:第二ソフィアプラザ2階 ソフィアホール



セキュリティ部会



Webサービス部会



IP電話部会

技術委員会が主催する平成16年度技術研究会の発表会が2月18日に盛況に開催されました。この研究会は、毎年会員各社の中堅および若手の技術者が集まって、ソフトウェアの技術研究を共同で行うものであり、今年度も3部会を設置し、昨年の6月に募集を行い23名の参加を得て、7月から各々テーマを決めて実際の研究活動を行ってきました。

その研究成果を、各部会40分の持ち時間で発表を行いました。

はじめに、郷司会長より開会挨拶があり、「技術研究会における研究活動が地域のソフトウェア技術の普及向上に大変有意義であり、また研究活動を通じての他社との交流が人を知るうえでの大変貴重な経験になる」というコメントをいただきました。

その後、研究発表に移りました。通常は、発表会に先立ち基調講演を行っておりましたが、今年度は、部会活動の成果を十分に発表させたい

との配慮から、基調講演を割愛させていただきました。研究発表は、セキュリティ部会、Webサービス部会、IP電話部会の順で行い、発表内容は各部会とも興味深い内容で事例や図表を効果的に使用してよくまとめられており、分かりやすい発表でした。また、質疑応答も活発に行われました。

最後に、阿南委員長より各部会の代表者に約7ヵ月間の研究活動に対する報奨金を贈呈し労をねぎらいました。

各部会の研究テーマと発表の内容は、以下のとおりです。なお、各部会の発表資料は当協会のホームページで公開しています。

<http://www.oisa.jp/menu5-2.html>

研究テーマと発表の要旨

- ① セキュリティ部会
 テーマ：セキュアなネットワーク構築について
 要旨：企業における社内LAN構築から公開サービスの提供までの想定されるリスクとその原因および対策についての提案。
- ② Webサービス部会
 テーマ：Webサービス最新技術の動向と課題
 要旨：Webサービスとは何か？Webサービスの導入事例と最新技術の動向についての調査研究。
- ③ IP電話部会
 テーマ：IP電話の現状と今後の動向について
 要旨：IP電話の歴史、IP電話の仕組み、および導入事例から見るIP電話の真実についての考察。

新任者紹介

アソシエント・テクノロジー(株)
 愛媛ソリューションセンター
 チームリーダー 河野 裕司
 TEL:097-573-4002 FAX:097-573-4003

研修委員をさせていただいておりますアソシエント・テクノロジーの河野と申します。会員みなさんがレベルアップして、より質の高い活動ができるように企画を作っていきたいと考えています。よろしくお願いたします。



OISA News表紙用写真・イラスト等の作品募集について

大分県情報サービス産業協会 広報委員会

OISA Newsは平成17年7月発行予定の第37号よりA4版8ページにリニューアルします。これを機に、会員企業のみならずから作品を公募し毎号の第1面(表紙および目次)に掲載いたします。掲載された方には、粗品を進呈いたします。

詳細につきましては、下記ホームページをご覧ください。
 URL: <http://www.oisa.jp/syashinbosyu.pdf>

■ 業務内容

情報処理システムの受託開発
(システム設計、プログラミング、システム維持管理)

システム運用センター
(サーバー運用管理)

URL: <http://www.mctaiyo.co.jp/>

いい仲間。
 いい仕事。
 いい環境。
 そして
 いい社会。

ひらめきが、きらめきに...

コンテンツ制作
(WEBサイト構築・維持管理、データ入力など)

オンデマンド印刷
(名刺、挨拶状、宛名印刷、パンフレット制作など)

三菱商事太陽株式会社

連絡先: 〒874-0011 大分県別府市内籠1393 Tel0977-67-3214 (代表)

第13回サウンズコンテスト ON THE COMPUTER 開催

日時:平成17年1月22日(土)13:30~16:00 会場:大分市オアシスひろば21地下映像小ホール

第13回を迎えたサウンズコンテストOn The Computerは、1月22日(土)に大分市オアシス広場の地下1F映像小ホールで大盛況のうちに開催されました。

応募曲55曲の中から予備審査を通過した17曲で本審査を行いました。応募者のレベルが高いところで揃っていたためでしょう、まさに実力伯仲、例年になく高レベルでの激戦となりました。

その激しい競争を勝ち抜き、みことグランプリに輝いたのは大分市の木下直郁さんの作品「亜細亜ウィンド」、中央アジアの草原を渡る悠々の風を感じさせるサウンドに、サンプリ



郷司会長あいさつ

■入賞者(敬称略)

	氏名	年齢	地区	タイトル	副賞
グランプリ	木下 直郁	26歳	大分市	亜細亜ウィンド	オーイーシー賞・富士通大分ソフトウェアラボトリ賞
オリジナル曲部門1位	新庄 弘章	33歳	大分市	migration	ゴードービジネスマシン賞・西日本電信電話賞・大銀コンピュータサービス賞
オリジナル曲部門2位	篤永 猛彦	29歳	北海道	遙	トキハ賞・新日鉄ソリューションズ賞・エフエム大分賞
オリジナル曲部門3位	高山 達成	21歳	大分市	森・羅・万・象	大分ケーブルテレコム賞・総合技術大学院賞
編曲部門1位	上原 尚	21歳	大分市	ユクミソレー	九州東芝エンジニアリング賞・西日本電信電話賞
編曲部門2位	牧野 由美	20歳	大分市	Ave Maria -Universe mix-	トキハ賞・KCS大分情報専門学校賞・エフエム大分賞
編曲部門3位	指原 隆	51歳	挾間町	お魚天国、今と昔	大分ケーブルテレコム賞・総合技術大学院賞
トリニータ応援部門最優秀賞	大野 修	37歳	別府市	魂	トリニータ賞
トリニータ応援部門優秀賞	亀石 善弘	50歳	国東町	大分の星(サンバ編)	トリニータ賞
トリニータ応援部門優秀賞	武宮 仁美	27歳	臼杵市	TRINITA OF VICTORY	トリニータ賞

グ音源を効果的に配した出来映えは、そのままテレビドキュメンタリーのテーマ曲としても使えそうな完成度でした。

また、大分フットボールクラブ様からの後援も2年目となり、トリニータ応援曲部門にも昨年以上の応募があつて大変盛況でした。トリニータ応援番組からの直接取材、表彰式のレポートなどテレビ放映でご覧になった方も多くのことと思います。

トリニータ応援曲部門の最優秀賞は大野修さんの「魂」、日頃のトリニータに対する熱い思いがそのまま音になったような、エネルギッシュな音楽となっていました。

この曲は向こう一年、ビツグアイでのトリニータの試合のBGMとして使われることになっています。観戦に行かれた方は、試合前に流される音楽にも是非ご注目ください。

今回の公開審査の司会は、元かぐや姫のメンバーでラジオ番組などで大活躍中の大嶋三平さんをお願いいたしました。応募者へのインタビューなどでの軽妙なやりとりは、とかく堅くなりがちな会場の雰囲気の大いに和らげていま

した。

継続は力なり、来年以降もサウンズコンテストを続けていきますが、毎年大変な進歩を遂げているIT技術と音楽の世界がこれからどう絡んで発展していくのか、運営側としても大きな楽しみです。

今回から協賛していただいた(株)シーエスデーは神奈川県川崎市に本社を構え、環境と安全に特化したシステム提案、設計、開発の事業をされており、なかでも、WEB上での音楽登録配信ビジネスについては、このコンテストの目的とする新しい時代の音楽を作り、広めていく趣旨と同調するところが多く、今後も協力してやっていきたいと考えています。

最後になりますが、今回も各社様から多くの賞品提供をいただきました。紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。(イベント委員会)



グランプリの木下さん

	氏名	審査歴
審査委員長	田村 洋彦	9回目
	大分大学教授(音楽科)・九州作曲家協会会長	
審査委員	郷司 潔	6回目
	大分県情報サービス産業協会会長(株)オーイーシー	
審査委員	星芝 貴行	4回目
	日本文理大学講師(情報メディア科)	
審査委員	久保田 栄子	3回目
	作曲家	
審査委員	白石 洋一	4回目
	大分県情報サービス産業協会会長	

フレッシュさん紹介 今後ともよろしく願っています。

富士通(株)九州営業本部 大分支店 瀬戸 慎也
趣味:水泳・野球観戦
好きな言葉:『スピードのある行動』



アソシエイト・テクノロジー(株)大分ソリューションセンター S I 1 チーム 板橋 直樹
趣味:映画鑑賞
好きな言葉:一期一会



(株)APC 総務部 手島 あゆみ
趣味:映画鑑賞
好きな言葉:誠実



大分支店に配属されて1年がたちました。あふれる自然や新鮮な海の幸に出会い、心地よい生活を過ごしています。現在、私は県内のお客様に対し、営業サポートをさせて頂いております。この1年で感じたことは、大分のお客様はITに対する意識が高く斬新な考えを持っていて、刺激的なものでした。そして地域性を考慮しないと、ビジネスに繋がらないとも感じています。ITセールスとしてこのようなお客様に対し、いかにプレゼンテーションをしていくか悩みなながらも「責任ある仕事」と感じ、日夜取り組んでいます。これからは、この責任ある仕事を邁進すべく「地域密着型」を目指すとともに、スピード感あふれる営業として成長していきたいと思

私は、今年入社したプログラマーで、まだまだ勉強中の新人です。日々の業務の中でまだ緊張感を持ちながら作業を行っていますが、先輩方のアドバイスのもと、自分の技術を磨いています。また技術ばかりではなく、作業の効率化の視点を常に忘れず業務に取り組んでいます。それは、今回IT業界での初めての業務に就いて感じたことが、自分の能力と仕事量とをきちんと把握する必要があるということだったからです。こんな私で毎日大変ですが、自分で問題を解決できた時の楽しさを糧に頑張っています。今後は先輩方の豊富な業務知識を吸収し、人から頼られる存在になることが目標です。道のりは遠いかも知れませんが、自分のペースで頑張っていきます。

私は4月から株式会社APCの事務員として、社会人になります。そのため今は、研修期間とし、不安ながらも私自身会社の方達に迷惑をかけることがないように、精一杯頑張っております。仕事上だけに限らず、会社の雰囲気がよく見られるよう、態度や行動でも示していくことを心がけております。また、研修期間中に感じたことは、社会人になるにあたり、信頼性が一番必要だと思っています。会社の方達やお客様に信頼される人間に成長していきたいよう、一日一日を大切に努力していきます。会社はとても雰囲気が良く、社員の皆さんも温かく接してくれます。一員になるにあたり、勉強することがたくさんありますが、ささいな気遣いを大切に、明るく頑張ります。

広報委員会からのお知らせ

(有) オール人材活用センターは、平成16年9月に(株)APCに社名変更されました。

OISA News 2005.3.24発行

発行:大分県情報サービス産業協会

会長 郷司 潔

http://www.oisa.jp

編集:広報委員会

事務局:大分市城崎町2-6-31

(大銀コンピュータサービス(株)内)

TEL (097) 537-5918

FAX (097) 534-4545

印刷:佐伯印刷株式会社

「ドコモマイショップ」は、お客様の選んだお店がケータイライフをサポートする会員サービス。会員限定の特典やプレゼントもいっぱい!

★ご入会いただいたお店から

- オリジナルの特典やサービスが受けられる!
- ショップ情報・おトク情報をメールでお届け!

★もれなくドコモポイント100ポイントプレゼント!

ドコモマイショップへのご入会は「ドコモショップ金池店」へ▶

アンケートにお答えいただくとさらに100ポイント贈呈!!

ドコモショップ 金池店

大分交通株式会社 情報通信営業部

0120-68-0889

〒870-0918 大分市金池町1-4-1

TEL:097-538-5808 FAX:097-538-5805